湖南市教育だより

令和７年(2025年)3月28日
No.4

発行　湖南市教育委員会教育研究所
湖南市石部中央一丁目１番１号　西庁舎内
TEL 0748-77-7052(直通)　FAX 0748-77-4101(代)
Mail edkonan006@edu-konan.jp

市教委研修（初任者研修・中堅教諭等資質研修）

第４回初任者研修（１０月３日）
　午前は、企業（甲賀高分子株式会社）の講義・演習から社会人としての心構え、会社で大事にしていること、若手教員に望むことを学びました。

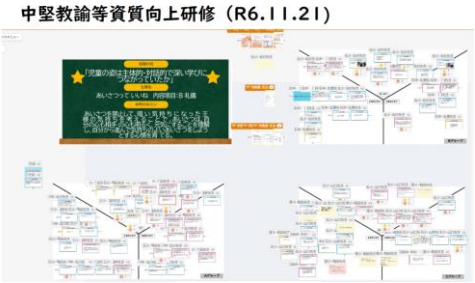
　午後は、甲西中石畠先生の国語科の授業から、生徒が取り組んでみたくなる授業づくりについて学びました。

　協議会では、児童生徒と同じクラウド環境で、共同編集を行いながら話し合いました。

第５回初任者研修（２月４日）
　水戸小竜王先生の道徳科の授業から、どの児童も学びに向かうことができる授業づくりについて学びました。

第２回中堅教諭等資質向上研修（１１月２１日）
　水戸小水上先生の道徳科の授業から、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりについて学びました。

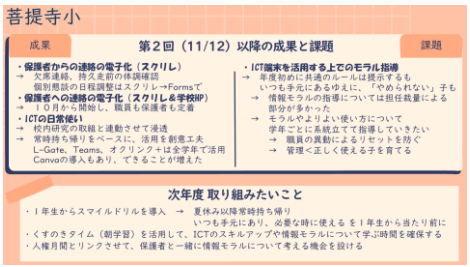
　授業の終盤には、ゲストティーチャーとして、毎朝、子どもたちを迎えておられる校長先生からあいさつの気持ちよさについてのお話がありました。

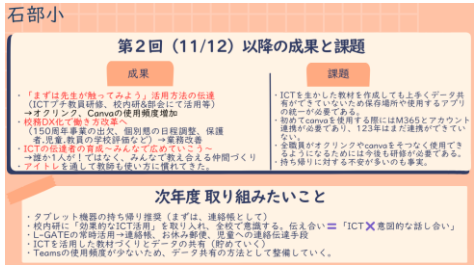


　初任者研修や中堅教諭資質向上研修の研究協議会で体験した児童生徒と同じクラウド環境を使った意見共有の方法が各校に持ち帰られ、クラウド活用のよさが市内全体に広がっています。

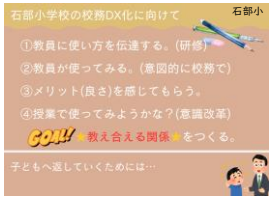
ICT活用推進委員会

２月７日に開催した第３回ICT活用推進委員会では、各校が第１回会議で設定した「重点的に取り組むべき事項」についての成果と課題を共有し、リーディングDXスクール指定校の実践発表も行いました。





会議前からクラウドで資料を共有し、他小中学校の実践に対して聞きたいことが聞ける時間を設けることで、協議が深まりました。



リーディングDXスクール実践校の２校の発表から、「とにかくやってみる」そして、まず教職員が体験してよさを知ることで児童生徒の活用につながっていくことがよく伝わりました。次年度、さらに湖南市に広げていきます。

当日参加者の振り返りから

・どの学校も毎日の常時持ち帰りで悩まれていること、その中で様々な挑戦をされていることを聞き、本校でも「できる・できない」ではなく「やるか・やらないか」「迷ったらとにかくやってみよう」を合言葉に取り組んでいきたい。

・石部小のように、一人の担当者だけでなく、ICTの悩みを出せる窓口を複数化できると広がっていくと感じました。ポイントを絞った短時間の研修を行い、実際に使う機会（使えること）を増やしていくことが大切だと思いました。教科や教師によって温度差があるので少しでも「やってみたいな」「便利だな」「面白いな」から「やってみたらできた」「思ったより簡単だった」ということが実体験として増えていくように取り組みたい。「こういうことってできるんかな？」という前向きな活用希望・要望がたくさん出てくるような雰囲気が作れるといいなと思いました。

ICT授業推進ワーキンググループ

２月２７日に開催した第３回ICT授業推進ワーキンググループでは、メンバーそれぞれが実践報告を行い、その内容を各部会で共有しました。さらに、授業の目的や目指す子どもの姿に焦点を当て、授業力向上を目指すために必要な取組について協議を行いました。最後に、以下のキーワードが出てきました。

子ども主体の授業をデザイン
参加しやすい環境づくり
意見を集めるだけでなく、比べるところまでクラウドを活用
データの蓄積を生かした積み上がっていく振り返り
教師は、どんな時も学びの価値づけを大切に

ワーキンググループの授業研究会は、校内研究と兼ねて実践した事例がいくつかあり、参加したグループメンバーと実践校の教職員との意見共有を行うことができました。この共有を通じて、双方の学びが深まりました。

次年度は、市内の他校で行われている協議会の進め方や学びの内容を共有することにより、各校の校内研究がさらに活性化すると考えています。

また、４月からはクラウドを活用した市内共通の研修プラットフォームの運用を開始できるよう、準備を進めていきたいと考えています。

当日参加者の振り返りから

・はじめのころから言われていましたが「ICTは目的ではなく手段」「あくまでツール」ということが、ようやく自分の中でも腹落ちし始めた感じがします。多くの実践が集まるこの機会が、教員側のたくさんの学びとなり、それが子どもたちに還元されていると思うと、良い取組だなぁと思います。他の教職員につなげるコーディネーターという話もいただきましたが、この話をどのように伝えどのように広めていくのか。ただ、打ち合わせなどで「こんな話でした。」と出すのではなく、普段の職員室の会話という機会をとらえたり、学校組織の中でどのように位置づけて伝えていくのか、その手法が大事だとも感じています。

・他の学校の先生方と実践を共有することでICTの仕様の幅がぐんと広がった気がします。また、他のグループの先生方のお話を聞く中でICT活用の利点や課題点を学ぶことができ、来年度以降もICTを活用した授業実践を積極的に行っていきたいと思いました。